

2026 年度 医学部一般選抜入試問題「生物」 出題意図

本学医学部一般選抜入試問題「生物」では、文章や図表から必要な情報を読み取る「読解力」、情報を整理し、必要に応じて数量的に捉え、適切な結論を導く「思考力」、考えをわかりやすく説明する「表現力」を、医学を学ぶうえで必要な基礎学力とともに総合的に評価している。

大問Ⅰ

大問Ⅰでは、植物ホルモン、特にオーキシンの発見に関する実験を題材とした。実験の内容を読み取り、それぞれの実験から何が推測されたのかを理解する力や、科学的知見が複数の実験の積み重ねによって得られることを理解する力を問うている。

大問Ⅱ

大問Ⅱでは、染色体、ゲノム、遺伝、DNA 複製に関する内容を扱った。基本的な用語や知識の理解に加え、複数の遺伝子座が関わる形質の現れ方や放射性チミジンを用いた実験結果を考える問題を通して、生命現象を染色体や DNA のふるまいと関連づけて考える力を問うている。

大問Ⅲ

大問Ⅲでは、カンガルーネズミの腎臓による水分調節を題材とし、体内環境の維持という医学にもつながる基本的な考え方を扱った。リード文や観察結果、実験結果をもとに、初めて見る内容を理解して具体的な事例に応用する力、生命現象を数量的に捉える力、生物の環境への適応を体の構造や機能と結びつけて考える力を問うている。

大問Ⅳ

大問Ⅳでは、膵臓の外分泌機能と内分泌機能に関する内容を扱った。会話文、実験結果、模式図、グラフから膵臓の構造と機能のつながりを理解する力に加え、実験結果を図で表し、考えを簡潔に説明する力を問うている。

いずれの大問も、既習事項をそのまま答えるだけでなく、与えられた情報を必要な知識や考え方と結びつけて考え、判断する力を重視している。